

BRAND
暖簾を
受け継ぐ

計量機器の世界で 画期的な製品を 次々と生み出す



▲「新商品のヒントはすべてお客様の声の中にあります」と話す早川静英社長



▲このポータブル・トラックスケールは、配線不要のワイヤレス計量器で、これも業界初の商品

守隨本店は計量機器の業界で一目も二目も置かれている企業で、自動車や造船などの業界からも注目されている。というのも、業界関係者が驚くような商品を次々と誕生させているからだ。

その一つが、フォークリフトスケールだ。これは、フォークリフト本体に計量器を取り付ければ、「荷物の運搬作業」と「正確な計量」を同時に見えるというもの。さまざまなか所で利用されているが、特に漁港で重宝されているそうだ。

これまで漁港では、魚を船から降ろし固定式の秤まで運び、計量がつかなかった。それがフォークリフトスケールの導入で運搬と同時に計量が行えるので、水揚げの作業時間が3分の1に短縮できたという。

「これは、『秤は動かないもの』という固定観念を捨てて開発したものなんです。当社が何より大切にしていることは、お客様のニーズを的確に把握して具現化し、『こういうものが欲しかったんだよ』と喜んでいただける商品をつくることです」と社長の早川静英さんは話す。

そのほかにも、100tまで計量できる国内最大級の電子式つり秤や、1600°Cの酷熱環境で使用される。

天文年間（1532～55年）の甲州（現山梨県）を統治した武田信玄は、粗悪な秤が横行し、甲斐金山から算出する金を正確に計量できないことに頭を悩ませていた。

そこで、信玄の長男・義信の長子である信玄を守隨の源流、吉川守隨茂済の元へ養子に下し、秤の製造専売権を与えて秤の規格統一と品質の均一、そして向上を図った。天正10（1582）年に武田勝頼が滅んだ後、甲州に入った徳川家康は信義を呼び、秤座の家職を許すと同時に守隨の秤を公定秤と認定。これによって、全国各地の秤認定。これによって、全国各地の秤が統一された。

取引先の一言が開発のバネに

しかし、長い歴史の中にはピンチもあった。その最大のものは、言うまでもなく太平洋戦争だ。同社は本店をはじめ工場も焼失。しかも、跡継ぎもいなかつたため、店を畳む寸前まで追い込まれた。

そこで、守隨家と親戚に当たる早川家が話し合い、事業を受け継ぐことになった。そして、早川さ

固定観念を捨てる

守隨本店は計量機器の業界で一目も二目も置かれている企業で、自動車や造船などの業界からも注目されている。というのも、業界関係者が驚くような商品を次々と誕生させているからだ。

その一つが、フォークリフトスケールだ。これは、フォークリフト本体に計量器を取り付ければ、「荷物の運搬作業」と「正確な計量」を同時に見えるというもの。さまざまなか所で利用されているが、特に漁港で重宝されているそうだ。

これまで漁港では、魚を船から降ろし固定式の秤まで運び、計量がつかなかった。それがフォークリフトスケールの導入で運搬と同時に計量が行えるので、水揚げの作業時間が3分の1に短縮できたという。

「これは、『秤は動かないもの』という固定観念を捨てて開発したものなんです。当社が何より大切にしていることは、お客様のニーズを的確に把握して具現化し、『こういうものが欲しかったんだよ』と喜んでいただける商品をつくることです」と社長の早川静英さんは話す。

そのほかにも、100tまで計量できる国内最大級の電子式つり秤や、1600°Cの酷熱環境で使用される。

信玄との縁を持つ守隨家

「私は31歳で入社し、販路拡大のために営業を担当することになりました。その後、新規開拓をしていましたが、将来の跡継ぎということで呼び戻されました。そのときに生涯忘れられない悔しい体験をしたんです。それが今日のような会社の形にしたのかかもしれませんね」と彼は当時を振り返る。

顧客から台秤の見積もりを依頼された早川さんは、意気揚々と見積書を提出した。営業を始めたばかりだったこともあり、見積書を出したら、すぐ注文をもらえたと思いつ込んでいたのである。

「ものすごくショックを受けました。値段でしか評価されないような秤をつくっていたのか。こんなことで

人の父親が十七代目当主に就任し、復興を目指した。

昭和23年に株式会社組織に改め、本社と工場を再建。それまで培ってきた技術を生かし、地道に品質のいい秤をつくり続けた。

42年には早川さんが入社。大学を卒業後、新聞記者をしていたが、将来的の跡継ぎということで呼び戻されたのである。

「私は31歳で入社し、販路拡大のために営業を担当することになりました。その後、新規開拓をしていましたが、将来の跡継ぎということで呼び戻されました。そのときに生涯忘れられない悔しい体験をしたんです。それが今日のような会社の形にしたのかかもしれませんね」と彼は当時を振り返る。

「これがつくかけに、これまでにならなかった。そこで、様子をうかがって、一番安い会社に発注した。守隨本店は3番目に高かつたよ」との返事だった。

守隨本店は3番目に高かつたよ

は会社の経営は成り立たない。他

できるクレーンスケールを開発。もちろん両方とも世界初のものだ。

現在、このつり秤は造船所に納入され、90tを超える船用スクリュなどの計量に使われている。

一方、クレーンスケールは、自動車メーカーがエンジンなどの鋳物をつくる工程で使用。「それまで計量できなかつたところで使え、エンジンの性能向上と大幅なコストダウンに役立た」と感謝されているそうだ。

また、最近開発した車載計量器は、トラックの荷台が秤になり、計量した荷物をそのまま運搬できるという画期的なものだ。このように、それがフオーリフットスケールの導入で運搬と同時に計量が行えるので、水揚げの作業時間が3分の1に短縮できたという。

これまで漁港では、魚を船から降ろし固定式の秤まで運び、計量がつかなかった。それがフォークリフトスケールの導入で運搬と同時に計量が行えるので、水揚げの作業時間が3分の1に短縮できたとい

う。これまで漁港では、魚を船から降ろし固定式の秤まで運び、計量がつかなかった。それがフォークリフトスケールの導入で運搬と同時に計量が行えるので、水揚げの作業時間が3分の1に短縮できたとい

う。これまで漁港では、魚を船から

戸で秤座の家職を特許された守隨正次の三男、治郎右衛門が明暦4（1658）年に興した名古屋秤座にさかのぼる。

江戸時代、秤は幕府によって厳しく統制され、製造専売権を持つ秤座だけが取り扱いを許可されていた。それ以前にもこんな話が残っている。